

5-⑩ 教員の資質を向上し、互いに高め合う職場づくりを推進する

取組 2 2	大量退職に対応したミドルリーダーの育成等による指導力の向上
--------	-------------------------------

【担当所属：総合教育センター 学校人事課】

1 現状

群馬県の教員の年齢構成は50歳代が多く、平成25年度現在48歳から58歳の各年齢で400名を超えており、今後10年間は教員が大量に退職する時期を迎えます。

(1) 教員の指導力の向上

教員の指導力の向上を実現するために、教員のライフステージに応じて研修を体系化した「ぐんま教職員ステージアップシステム」に基づき各種研修や教育研修員研修を行っています。

また、各種教育関係資料の収集や提供、学校における研修の支援を行っています。

① 研修講座

経験年数や職種・職務に応じた研修や教科・科目等に係る研修講座を実施しています。

<平成24年度実績>

区 分	研修講座数（講座）	開催日数（日）	延べ受講者数(人)
初任者・経験者研修	22	193	12,941
指定研修	29	82	3,758
希望研修	35	143	1,518
公開講座	7	9	522
合 計	93	427	18,739

② 教育研修員研修

教育の課題の解決に向けた研究、授業力の向上を目指した研究、民間企業等での研修を行います。

<平成25年度実績>

研修区分		研修員数（人）
長期研修	総合教育センターでの1年間の研修	30
長期社会体験研修	民間企業等での1年間の研修	5
特別研修	総合教育センターでの25日間の研修	65

(2) ミドルリーダーの育成

各種研修においてミドルリーダーとして求められる資質の向上を図る内容を充実させています。

① ミドルリーダー研修

学校を組織的に運営し、学校の教育目標の実現や課題解決を推進する資質・能力の向上を図ります。

② 経験者研修

経験年数に応じた研修を通して、中堅教員としての資質向上を図ります。

③ 主事・主任研修

職務に応じた研修を通して、学校を組織的に運営するためのマネジメント能力の向上を図ります。

④ 教育研修員研修

長期研修や長期社会体験研修、特別研修により、総合教育センターでの研修等を通して、優れた識見と指導力を身に付けた教育活動の推進者を育成します。

2 課題

(1) 教科及び教育活動全体に係る教員の指導力を向上すること

(2) 教員の大量退職を迎えることによる指導力低下に対し、特に中堅、若手教員の資質向上等を図ること

3 取組の方向

- (1) 教員の指導力の向上を図るために、「ぐんま教職員ステージアップシステム」に基づき、教職員研修の充実に努めます。
- (2) 若手教員の研修を体系化し、指導力の向上を図ります
- (3) 教育研修員研修を通して、群馬県の教育活動の推進者を育成します。
- (4) ミドルリーダーの育成及び資質向上に努めます。
- (5) 目的を明確にした人事異動を積極的に推進し、学校組織を活性化させるとともに、個々の教員の指導力の向上を図ります。
- (6) 人事評価制度の適正な運用を通して、個々の教員の職能成長を促します。

4 主な取組内容

- (1) 研修講座において、グループ協議や参加体験型研修を取り入れた双方向型の研修により、課題探究型の学習、協働的な学び等の新しい学びを展開できる教員の育成に努めます。
- (2) 初任者、3年目、5年目の研修や長期研修等の充実に努めます。
- (3) 「ミドルリーダー研修」を継続して実施し、県内全学校におけるミドルリーダーの資質向上を図ります。
- (4) 接遇や外部へのマナー、身だしなみ等に関する教員全体の資質の向上を図ります。
- (5) 中堅教員交流を中心に、目的を明確にした教育事務所間及び市町村間の人事異動を計画的に推進し、若手教員の指導力向上や中堅教員の学校経営に係る職能成長を図ります。
- (6) 人事異動により学校組織の活性化を推進し、個々の教員の指導力向上を促す職場環境づくりを図ります。
- (7) 管理職研修や評価者研修会等において、人事評価制度の理解と活用を推進し、教職員の資質能力の向上を図ります。
- (8) 各学校における若手教員や中堅教員に対するベテラン教員からの指導・助言等を促すことや校内研修の充実に努め、教員全体の指導力向上につなげます。

5 達成目標

目標の概要	基準年度の状況(H25)	目標年度の状況(H30)
(1) 研修講座等における参加体験型研修の割合	45%	60%
(2) 研修講座における若手教員と中堅教員が学び合う機会の拡充	初任者と10年目経験者研修員の交流	すべての経験者研修相互において実施

《コラム》

「教員」は「将来なりたい職業」？

国では、あるべき教員像を「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」をもつ者と明示していますが、児童生徒は、実際の教員に対してどんなイメージを持っているのでしょうか。一例として、幼児から小学校6年生までを対象に「大人になったらなりたいもの」を聞いた民間の調査によると、「学校の先生」は、女子では平成元年度の調査開始から毎年上位にあるものの平成24年度はトップ5に入りませんでした。また、男子では平成23年度、24年度と2年連続で10位以下となっています。児童生徒にとって身近にいる大人のひとりである教員が「将来なりたい職業」として意識されるような魅力ある姿を見せていけるよう取り組んでいく必要があります。